

政策評価シート【個票:生活実感・行動指標】

施策の柱	3-1 未来を担う人材を育成する
施策	3-1-1 学校教育の振興

指標NO 61

指標名	こどもが、学校でいきいきと学び、心身ともに健やかに成長している	単位	%
-----	---------------------------------	----	---

担当局(区)	教育委員会事務局
--------	----------

区分	H23末現状値	H27中間評価(H26末値)	H30中間評価(H29末値)	H34最終評価(H33末値)	達成状況
目標値	—	70.0	73.0	75.0	
現状値	69.1	77.4	—	—	○

目標設定の考え方	児童生徒の心身の健やかな成長は、未来を担う人材を育成するにあたり極めて重要であることから、児童生徒の学校生活を充実させ、学力の向上、豊かな人間性の育成及び健やかな体をつくることを目指し、目標値を設定した。
----------	--

【達成状況の分析】

平成26年度末目標値に到達し、最終目標値も大きく上回っており、大変良好な状況である。また、千葉市学力状況調査や全国学力・学習状況調査において、「学校の勉強がわかりますか」や「学校に行くのが楽しいですか」という質問に肯定的に回答した児童の割合はそれぞれ、約88%、約85%と高くなっている。その要因として、各学校が授業改善に取組み、「わかる授業」に取り組んでいることや、学校適正配置等の学校設備の整備・充実、学校図書館指導員等の学習環境充実のための人的支援、市内の小・中・特別支援学校の児童や生徒が参加する総合展覧会や体育大会等の成果発表の機会の充実、農山村留学等の体験学習の推進等の諸施策により、「楽しい教室」「夢広がる学校」づくりの効果が総合的に表れてきているものと考えられる。

【課題及び今後の取組みの方向性】

これまでの成果を踏まえ、今後も千葉市学力状況調査を継続して実施し、学力や学習・生活の意識調査の結果を学校運営に生かしていくとともに、諸施策の成果と課題を整理し、効果的な環境整備や人的配置等を行っていく。また、学校教育の成果を広く一般市民にも周知していくことも重要であることから、学校教育に関する広報を継続して実施していく。

指標を構成する事業

計画事業

No.	事業名	主な取組項目	H23末現況	計画内容	H26末目標	H26末実績	進捗	事業費(千円)
1	学力状況調査の実施	小・中学校学力状況調査	—	小学3、5年生 4教科 中学2年生 5教科	小学3、5年生 4教科 中学2年生 5教科	小学3、5年生 4教科 中学2年生 5教科	達成	64,319
2	学校適正配置(小・中学校の統合等)の推進	統合校 協議継続地区	5校 3地区	4校 3地区	9校 3地区(協議継続:2地区、 協議完了:1地区)	9校 3地区(協議継続:2地区、 協議完了:1地区)	達成	0
3	高等特別支援学校の整備	高等特別支援学校の整備	—	改修工事、備品整備	供用開始	供用開始	達成	314,127
4	特別支援学級等設備の充実	新設学級への備品整備	98校	24校	122校	122校	達成	5,146
5	教育相談指導教室の整備	教育相談指導教室の整備	—	改修工事、備品整備	供用開始	供用開始	達成	2,811
6	校舎の増築	新宿中学校増築	実施設計	工事	完了	完了	達成	687,722

その他事業

(千円)

No.	事業名	主な取組項目	H23末現況	事業量(H24~26)	H26末目標	H26末実績	進捗	事業費
1	児童生徒成果発表事業(総合展)	作品出品展示点数	3,526点	10,600点	3,560点	3,527点	概ね達成	2,506
2	児童生徒成果発表事業(総合展)	入場者数	26,285人	79,600人	26,500人	26,418人		
3	児童生徒成果発表事業(理科発表)	参加人数	371人	850人程度	400人	312人 (3か年平均 316人)	未達成	39
4	農山村留学推進事業	参加児童数	6年生全児童(約9000人)	6年生全児童(約27,000人)	6年生全児童(約9000人)	6年全児童(8,869人)	達成	136,223
5	移動教室推進事業	参加児童数	5年生全児童(約8,900人)	5年生全児童(約27,000人)	5年生全児童(約9,000人)	5年生全児童(8,375人)	達成	41,334
6	長柄げんきキャンプ	参加児童生徒数	特別支援学級等在学の全児童生徒(約830人)	特別支援学級等在学の全児童生徒(約2,700人)	特別支援学級等在学の全児童生徒(約950人)	特別支援学級等在学の全児童生徒(933人)	達成	8,586
7	学校・家庭・地域連携まちづくり推進事業	参加者数	児童生徒 約62,000人 保護者 約5,000人 地域参加者 約4,500人	参加者合計216,000人	参加者合計72,000人	参加者合計92,049人	達成	2,473
8	子どもの夢をはぐくむ学校サポート推進事業	学校支援員の配置(配置校数)	小学校 68校 中学校 17校	小学校 85校 中学校 25校	小学校 85校 中学校 25校	小学校 79校 中学校 23校 特別支援学校2校	概ね達成	5,902
9	理科支援員等の配置	理科支援員の配置	配置	配置	配置	配置	達成	32,134
10	小学校各種体育大会等	6年児童の参加率	87%	89%	89%	89.5%	達成	14,633
11	中学校体育大会・選手派遣	市内中学校千葉市総合体育大会への参加率	100%	100%	100%	100.0%	達成	24,901
12	学校図書館充実推進事業	学校図書館指導員の配置	配置	配置	配置	配置	達成	659,978

政策評価シート【個票:生活実感・行動指標】

施策の柱	3-1 未来を担う人材を育成する
施策	3-1-1 学校教育の振興

指標NO 62

指標名	学校での子どもの安全が守られている	単位	%
-----	-------------------	----	---

担当局(区)	教育委員会事務局
--------	----------

区分	H23末現状値	H27中間評価(H26末値)	H30中間評価(H29末値)	H34最終評価(H33末値)	達成状況
目標値	—	61.0	63.0	65.0	
現状値	59.5	61.7	—	—	

目標設定の考え方	児童生徒が安全に安心して学べる環境の整備は極めて重要であることから、学校施設の耐震化や防犯教育などの安全対策、地域の見守り活動などを通じて値の向上を図ることを目指し、目標値を設定した。
----------	--

【達成状況の分析】

学校施設の安全確保については、市内学校の校舎及び屋内運動場の耐震補強工事を行い、平成26年度末までに、校舎と屋内運動場の構造体の耐震化は概ね完了しているほか、防犯カメラを導入した学校では抑止効果で約85%以上の校舎及び敷地への侵入被害が減少していることに加え、学校セーフティーウオッチ事業に直接かかわる登録者数も年々増加していることや、学校防災アドバイザーを派遣する実践的防災教育総合支援事業を実施したことが認知されたことにより目標が達成されていると考えられる。

【課題及び今後の取組みの方向性】

学校施設の安全確保については、屋内運動場等の非構造部材の耐震化を平成27年度完了を目指して取り組み、その他の施設についても平成28年度までの完了を目指すほか、学校施設の安全管理の徹底に向け、さらにきめ細かい安全点検がなされるよう指導していく。
また、比較的被害の多い下校時について見守り活動を充実していただけるよう学校セーフティーウオッチャーに促して行くほか、災害時に的確に避難ができるよう学校防災アドバイザーを派遣し実践的な避難訓練を実施する。

指標を構成する事業

計画事業

No.	事業名	主な取組項目	H23末現況	計画内容	H26末目標	H26末実績	進捗	事業費(千円)
1	学校防犯対策の推進	学校防犯カメラシステムの設置	50校	9校	59校	61校	達成	2,487
2	学校施設の安全確保	校舎の耐震補強	小学校 35校 中学校 12校	小学校 50校 中学校 25校 高等学校 1校 特別支援学校 1校	完了	小学校 53校 中学校 23校 高等学校 1校 特別支援学校 1校	達成	12,351,752
3	学校施設の安全確保	屋内運動場の耐震補強	小学校 37校 中学校 18校	小学校 44校 中学校 13校 高等学校 1校 特別支援学校 1校	完了	小学校 44校 中学校 12校 高等学校 1校 特別支援学校 1校	達成	
4	学校施設の安全確保	校舎の改築 緑町小学校、松ヶ丘中学校	工事	工事	完了	完了	達成	52,496
5	校舎等の大規模改修	緑が丘中学校	実施設計	工事	完了	完了	達成	3,088

その他事業

No.	事業名	主な取組項目	H23末現況	事業量(H24~26)	H26末目標	H26末実績	進捗	事業費(千円)
1	学校セーフティーウオッチャー登録者数	学校セーフティーウオッチャー登録者数	23,151人	599人増	23,750人	26,855人	達成	3,088
2	実践的防災教育総合支援事業	学校防災アドバイザーの派遣	未実施	6校	6校	5校	概ね達成	162

政策評価シート【個票:客観指標】

施策の柱	3-1 未来を担う人材を育成する
施策	3-1-1 学校教育の振興

指標NO 63

指標名	学力状況調査で県平均値を上回るポイント数	単位	点
-----	----------------------	----	---

指標の説明	学力状況調査における小学校5年生の平均正答率が県平均正答率を上回ったポイント数	担当局(区)	教育委員会事務局
-------	---	--------	----------

区分	H23末現状値	H27中間評価(H26末値)	H30中間評価(H29末値)	H34最終評価(H33末値)	達成状況
目標値	—	2.4	2.5	2.6	
現状値	2.2	1.1	—	—	×

目標設定の考え方	全教科の平均正答率が常に県内上位水準に到達するように目標値を設定した。
----------	-------------------------------------

【達成状況の分析】

小学校5年生の学力状況調査は、国語・算数・理科・社会の4教科で実施しており、4教科の平均は、平成26年度末目標値に到達しなかった。教科毎にみると、国語と算数については目標値を達成しているが、理科と社会が下回っている。

その要因として、学習内容が増えたことや若年層教員の増加、様々な教育的ニーズに対応するための多忙化などが考えられる。また、各学校からの支援要望に応える人員配置を十分に行えなかったことも一因と考えられる。

【課題及び今後の取組みの方向性】

第1次実施計画における計画的な学力状況調査の実施により、結果に基づいた分析を通して教科毎の個別具体的な課題が確認されたことから、授業改善のための指導・助言を行う学校訪問や学校内外で実施される研修会等を通じて、指導法の工夫・改善を行い、「わかる授業」を推進し、児童の確かな学力の定着を図る。

また、平成25年度末との経年推移をみると、全教科とも上昇傾向にあるとともに、同時に実施している意識調査において、学習に対する意欲も増加傾向であるなど、これまでの取組に加え、「理科教育センター配置」や算数の学習支援を中心とする「学力向上センター配置」といった新たな事業の展開により、相乗的に成果が徐々に表れてきている。引き続きこれらの事業を実施するとともに、第2次実施計画事業や既存事業を効果的に組み合わせながら、きめ細かな指導を通じて、学ぶ意欲と確かな学力をはぐくみ指標の向上に努める。

指標を構成する事業

計画事業

No.	事業名	主な取組項目	H23末現況	計画内容	H26末目標	H26末実績	進捗	事業費 (千円)
1	学力状況調査の実施	小・中学校学力状況調査	—	小学3、5年生 4教科 中学2年生 5教科	小学3、5年生 4教科 中学2年生 5教科	小学3、5年生 4教科 中学2年生 5教科	達成	64,319

その他事業

No.	事業名	主な取組項目	H23末現況	事業量(H24~26)	H26末目標	H26末実績	進捗	事業費 (千円)
1	理科支援員等の配置	理科支援員の配置	配置	配置	配置	配置	達成	32,134
2	子どもの夢をはぐくむ学校サポート推進事業	学校支援員の配置(配置校数)	小学校 68校 中学校 17校	小学校 85校 中学校 25校	小学校 85校 中学校 25校	小学校 79校 中学校 23校 特別支援学校2校	概ね達成	5,902

政策評価シート【個票:客観指標】

施策の柱	3-1 未来を担う人材を育成する
施策	3-1-1 学校教育の振興

指標NO 64

指標名	千葉県運動能力証の合格率(小学生)	単位	%
-----	-------------------	----	---

指標の説明	千葉県運動能力調査で総合評価がA段階だった小学生の割合	担当局(区)	教育委員会事務局
-------	-----------------------------	--------	----------

区分	H23末現状値	H27中間評価(H26末値)	H30中間評価(H29末値)	H34最終評価(H33末値)	達成状況
目標値	—	25.6	25.8	26.0	
現状値	25.4	26.9	—	—	○

目標設定の考え方	今後も児童の体力・運動能力の向上に係る取組みを推進することとして目標値を設定した。
----------	---

【達成状況の分析】

H26末現状値は、H27中間評価における目標値を達成しており、また、H34最終評価の目標値も上回っている。達成できている要因としては、各小学校で、朝や休み時間等の空いた時間を活用したり、自分の進捗具合をカードなどに表し目標を明確化したりするなどの工夫をしたことが大きいと考えられる。また、体育主任会や学校体育経営推進研修会等の研修会を活用し、市全体の児童の体力の実態や課題を各学校で共有したり、学校毎に「体力向上推進委員会」等で自校児童の実態を捉え、具体的な体力向上の方法を検討、実践していることが指標の達成につながったものと考えられる。

【課題及び今後の取組みの方向性】

今後も、さらに合格率を向上させるため、今の取組みを継続し、体育学習の一層の充実を図り、体育好き、運動好きな児童を育成していく。また、市内の学校が、児童の体力向上の取組みを、さらに充実、推進できるよう、体育主任会や学校体育経営推進研修会等の研修会を活用し、支援をしていく。

指標を構成する事業

計画事業

No.	事業名	主な取組項目	H23末現況	計画内容	H26末目標	H26末実績	進捗	事業費	(千円)
-----	-----	--------	--------	------	--------	--------	----	-----	------

その他事業

No.	事業名	主な取組項目	H23末現況	事業量(H24~26)	H26末目標	H26末実績	進捗	事業費	(千円)
1	小学校各種体育大会等	6年児童の参加率	87%	89%	89%	89.5%	達成	14,633	
2	中学校運動部活動指導者派遣事業	希望校への派遣率	100%	100%	100%	100.0%	達成	7,533	
3	千葉市小学校運動能力検定	交付の割合	26%	28%	28%	25.8%	未達成	242	

政策評価シート【個票:客観指標】

施策の柱	3-1 未来を担う人材を育成する
施策	3-1-1 学校教育の振興

指標NO 65

指標名	千葉県運動能力証の合格率(中学生)	単位	%
-----	-------------------	----	---

指標の説明	千葉県運動能力調査で総合評価がA段階だった中学生の割合	担当局(区)	教育委員会事務局
-------	-----------------------------	--------	----------

区分	H23末現状値	H27中間評価(H26末値)	H30中間評価(H29末値)	H34最終評価(H33末値)	達成状況
目標値	—	23.9	24.2	24.5	◎
現状値	23.6	26.3	—	—	

目標設定の考え方	今後も生徒の体力・運動能力の向上に係る取組みを推進することとして目標値を設定した。
----------	---

【達成状況の分析】
H26末現状値は、H27中間評価における目標値を達成しており、また、H34最終評価の目標値も上回っている。目標を達成した要因としては、各中学校で「保健体育学習を中心とした活動」(補強運動、5分間走等)や「保健体育以外の活動」(体育館の開放、スポーツ大会の開催等)が定着し、生徒の基礎体力が向上していることが考えられる。また、保健体育主任会や学校体育経営推進研修会等の研修会を活用し、市全体の生徒の体力の実態や課題を各学校で共有したり、学校毎に「体力向上推進委員会」等で自校生徒の実態を捉え、具体的な体力向上の方法を検討、実践していることが指標の達成につながったものと考えられる。

【課題及び今後の取組みの方向性】
今後も、さらに合格率を向上させるため、今の取組みを継続することで、保健体育学習の一層の充実を図り、体育好き、運動好きな生徒を育成していく。また、市内の学校が、生徒の体力向上の取組みを、さらに充実、推進できるよう、保健体育主任会や学校体育経営推進研修会等の研修会を活用したり、学校毎の「体力向上推進委員会」を活用し、支援をしていく。

指標を構成する事業

計画事業 (千円)								
No.	事業名	主な取組項目	H23末現況	計画内容	H26末目標	H26末実績	進捗	事業費

その他事業

No.	事業名	主な取組項目	H23末現況	事業量(H24~26)	H26末目標	H26末実績	進捗	事業費
1	中学校体育大会・選手派遣	市内中学校千葉市総合体育大会への参加率	100%	100%	100%	100%	達成	24,901
2	中学校運動部活動指導者派遣事業	希望校への派遣率	100%	100%	100%	100%	達成	7,533
3	運動部活動地域連携再構築事業	希望校への派遣率	100%	100%	100%	100%	達成	2,529

政策評価シート【個票:客観指標】

施策の柱	3-1 未来を担う人材を育成する
施策	3-1-1 学校教育の振興

指標NO 66

指標名	読書の習慣のある児童の割合	単位	%
-----	---------------	----	---

指標の説明	一週間に1時間以上読書する小学校5年生児童の割合	担当局(区)	教育委員会事務局
-------	--------------------------	--------	----------

区分	H23末現状値	H27中間評価(H26末値)	H30中間評価(H29末値)	H34最終評価(H33末値)	達成状況
目標値	—	47.5	50	52.5	
現状値	45.6	45.2	—	—	×

目標設定の考え方	今後も児童への読書指導を一層充実させることとし、目標値を設定した。
----------	-----------------------------------

【達成状況の分析】

児童の主体的な読書活動のために、学校図書館を活用した探究的な学習を行ったり、朝読書や発達段階に応じた読み聞かせなどを通して読書に対する興味関心を高めたりする取組を推進しているところであるが、平成26年度末は目標値の47.5%に到達しなかった。

原因として考えられるのは、学校においては読書習慣が身に付いているものの、その習慣が家庭では十分活かされていないことである。さらに、本指標は家庭での読書習慣についての調査であるため、放課後の家庭での過ごし方が影響する。高学年になると、習い事等で家庭における読書の時間の確保が難しいこともあります、原因のひとつと考えられる。

【課題及び今後の取組みの方向性】

学校と家庭との連携を図った読書教育が課題であり、読書教育の重要性について保護者への啓発を図っていくことが重要となる。具体的には、保護者会や図書などを通して読書教育に対する理解を深めたり、保護者への学校図書館の開放を推進して保護者の関心を高めたりする取組みの充実を図る。家庭における読書は、低学年のうちからの習慣が大切になるため、中央図書館から配付されている「まほうの読書ノート」を活用して、親子で共に読書に親しむ機会を増やすための支援も行っていく。

さらに、学校においては、児童の読書意欲を高めるために配置されている学校図書館指導員との連携を図り、個に応じた図書紹介を積極的に行ったり、学習に役立つ図書の更新を図ったりしながら、より魅力的な学校図書館の運営に努める。

なお、施策を推進するための目標として、児童の実態を捉えた指標設定となるよう、検討を行う。

指標を構成する事業

計画事業								(千円)	
No.	事業名	主な取組項目	H23末現況	計画内容	H26末目標	H26末実績	進捗	事業費	

その他事業

その他事業								(千円)	
No.	事業名	主な取組項目	H23末現況	事業量(H24~26)	H26末目標	H26末実績	進捗	事業費	
1	学校図書館充実推進事業	学校図書館指導員の配置	配置	配置	配置	配置	達成	659,978	

政策評価シート【個票:客観指標】

施策の柱	3-1 未来を担う人材を育成する
施策	3-1-1 学校教育の振興

指標NO 67

指標名	不登校児童の学校復帰率	単位	%
-----	-------------	----	---

指標の説明	小学校の不登校児童のうち、学校に定期的・継続的に登校できるようになったと認められる者の割合	担当局(区)	教育委員会事務局
-------	---	--------	----------

区分	H23末現状値	H27中間評価(H26末値)	H30中間評価(H29末値)	H34最終評価(H33末値)	達成状況
目標値	—	33.1	36.1	40.0	
現状値	30.1	43.1	—	—	○

目標設定の考え方	不登校の未然防止や早期発見・早期対応、さらには不登校児童の自立支援のためには、各学校の主体的取組が重要であることから、魅力ある学校づくりや児童への指導を推進することとし、目標値を設定した。
----------	--

【達成状況の分析】

小学校の不登校児童のうち、学校に登校できるようになったと認められる児童は、25年度37.6%、26年度43.1%と年々増加し、目標を達成することができた。要因としては、各学校が主体的に不登校の未然防止や早期発見・早期対応に取り組んだり、農山村留学や移動教室を通して、魅力ある学校づくりや児童の心の居場所づくりを推進してきた成果である。不登校になりそうな児童がいる場合は、状況に応じて、スクールカウンセラーによるカウンセリングを行うとともに、家庭に問題がある場合には、スクールソーシャルワーカーが支援にあたり、早期解決に努めている。

【課題及び今後の取組みの方向性】

さまざまな問題を抱えた児童が、今後も増えることが予想され、学校だけで解決するには困難な状況も多い。現在、小学校においては、市内6校を拠点校として配置されたスクールカウンセラーが、巡回校2校を担当する巡回方式により18校の支援をしている。それ以外の小学校には学区中学校のスクールカウンセラーが支援する。今後、さまざまな問題の低年齢化等を踏まえ、配置等を検討する。また、家庭に問題を抱えた児童が増えることも予想され、スクールソーシャルワーカーの効果的な活用についても、検討していく。

指標を構成する事業

計画事業

No.	事業名	主な取組項目	H23末現況	計画内容	H26末目標	H26末実績	進捗	事業費	(千円)
-----	-----	--------	--------	------	--------	--------	----	-----	------

その他事業

No.	事業名	主な取組項目	H23末現況	事業量(H24~26)	H26末目標	H26末実績	進捗	事業費	(千円)
1	農山村留学推進事業	参加児童数	6年生全児童(約9000人)	6年生全児童(約27,000人)	6年生全児童(約9000人)	6年全児童(8,869人)	達成	136,223	
2	移動教室推進事業	参加児童数	5年生全児童(約8,900人)	5年生全児童(約27,000人)	5年生全児童(約9,000人)	5年生全児童(8,375人)	達成	41,334	
3	スクールカウンセラー活用	配置校数	57校(全中学校)	全中学校	全中学校	全中学校	達成	278,450	
4	適応指導教室設置	設置か所数	5か所	5か所	5か所	5か所	達成	0	

政策評価シート【個票:客観指標】

施策の柱	3-1 未来を担う人材を育成する
施策	3-1-1 学校教育の振興

指標NO	68
------	----

指標名	不登校生徒の学校復帰率	単位	%
-----	-------------	----	---

指標の説明	中学校の不登校生徒のうち、学校に定期的・継続的に登校できるようになったと認められる者の割合	担当局(区)	教育委員会事務局
-------	---	--------	----------

区分	H23末現状値	H27中間評価(H26末値)	H30中間評価(H29末値)	H34最終評価(H33末値)	達成状況
目標値	—	34.0	36.4	40.0	
現状値	31.6	35.9	—	—	○

目標設定の考え方	不登校の未然防止や早期発見・早期対応、さらには不登校生徒の自立支援のためには、各学校の主体的取組が重要であることから、魅力ある学校づくりや生徒への指導を推進することとし、目標値を設定した。
----------	--

【達成状況の分析】
中学校の不登校生徒のうち、学校に登校できるようになったと認められる生徒は、25年度32.3%、26年度35.9%と年々増加している。これは、各学校が主体的に不登校の未然防止や早期発見・早期対応に取り組んだことによる。不登校になりそうな生徒がいる場合は、中学校全校に配置しているスクールカウンセラーによるカウンセリングを行うとともに、家庭に問題がある場合には、スクールソーシャルワーカーが支援にあたり、早期解決に努めている。

【課題及び今後の取組みの方向性】
さまざまな問題を抱えた生徒がさらに増えることが予想され、学校だけで解決するには困難な状況も多い。家庭に問題を抱えた生徒が増えることが予想されることから、スクールソーシャルワーカーの活用について、検討していく。不登校になった場合には、少人数での個別指導を通して、学校生活への復帰を目指すため市内5区に設置している適応指導教室(ライトポート)や、通常学級に近い教育課程での活動を通して、学校生活への復帰を目指す真砂中学校教育相談指導教室等との連携・協力を図り、早期の学校復帰を目指す。

指標を構成する事業

計画事業

No.	事業名	主な取組項目	H23末現況	計画内容	H26末目標	H26末実績	進捗	事業費	(千円)
1	教育相談指導教室の整備	教育相談指導教室の整備	—	改修工事、備品整備	供用開始	供用開始	達成	2,811	

その他事業

No.	事業名	主な取組項目	H23末現況	事業量(H24~26)	H26末目標	H26末実績	進捗	事業費	(千円)
1	スクールカウンセラー活用	配置校数	57校(全中学校)	全中学校	全中学校	全中学校	達成	278,450	
2	適応指導教室設置	設置か所数	5か所	5か所	5か所	5か所	達成	0	
3	教育相談指導教室運営	設置か所数	1か所	1か所	1か所	1か所	達成	888	

政策評価シート【個票:生活実感・行動指標】

施策の柱	3-1 未来を担う人材を育成する
施策	3-1-2 地域の教育力の向上

指標NO 69

指標名	日頃、地域でこどもへの声かけや見守り活動を行っている	単位	%
-----	----------------------------	----	---

担当局 (区)	教育委員会事務局
------------	----------

区分	H23末 現状値	H27中間評価 (H26末値)	H30中間評価 (H29末値)	H34最終評価 (H33末値)	達成状況
目標値	—	18.0	19.0	20.0	X
現状値	16.7	13.8	—	—	

目標設定の考え方	今後も、地域でのこどもへの声かけや見守り活動を通じたこどもの安全確保や、地域とこどもとの交流を促進することとして、目標値を設定した。
----------	--

【達成状況の分析】

学校セーフティウォッチの事業に関わっている人の数は、増加してはいるものの活動者が限られており、その人材も固定化・高齢化している。それ以外の人が、日常で子どもに声をかける行為については、防犯上の観点から敬遠されてしまうことも、目標値に達しなかった要因であると考えられる。

また、地域の人との関わる場所である放課後子ども教室については、多くの学校で指導員や協力員の人材不足や意欲低下が顕在化しており、参加率が低迷し、目標を達成することができなかった。

【課題及び今後の取組みの方向性】

学校セーフティウォッチ事業への参加について、地域の方や保護者により一層働きかけていくほか、不審者等から子どもたちを守る側の者が、子どもから警戒されることにならぬよう「見守りの側」であることを明らかにする必要がある。より手軽に活動できるよう、目印となるものを身に着ける等、町内会、育成委員会等で検討するように働きかける。

また、放課後子ども教室では、新たな担い手の確保や活性化が課題であるため、既存の活動支援の取組みを引き続き実施していくとともに、民間企業や大学等の協力を得ながら、より多様で魅力的な体験・学びの機会の提供につながる活動支援方法を検討していく。

指標を構成する事業

計画事業

No.	事業名	主な取組項目	H23末現況	計画内容	H26末目標	H26末実績	進捗	事業費	(千円)
1	放課後子ども教室の推進	参加指導員・協力員数	37,000人／年	11,000人／年増	48,000人／年	24,617人／年★	未達成	0	
2	放課後子ども教室の推進	参加児童数	126,000人／年	36,000人／年増	162,000人／年	92,358人／年	未達成	0	

その他事業

No.	事業名	主な取組項目	H23末現況	事業量(H24~26)	H26末目標	H26末実績	進捗	事業費	(千円)
1	学校セーフティウォッチ	学校セーフティーウォッチャー登録者数	23,151人	599人増	23,750人	26,855人	達成	3,088	

政策評価シート【個票:生活実感・行動指標】

施策の柱	3-1 未来を担う人材を育成する
施策	3-1-2 地域の教育力の向上

指標NO 70

指標名	市内の学校は地域に開かれている	単位	%
-----	-----------------	----	---

担当局(区)	教育委員会事務局
--------	----------

区分	H23末現状値	H27中間評価(H26末値)	H30中間評価(H29末値)	H34最終評価(H33末値)	達成状況
目標値	—	44.0	47.0	50.0	X
現状値	40.6	40.0	—	—	

目標設定の考え方	特別教室などの学校施設の開放などを通じて、引き続き地域に開かれた学校づくりを推進していくこととして目標値を設定した。
----------	--

【達成状況の分析】

地域に開かれた学校づくり及び子どもをはじめとした地域住民の学習活動や交流活動を促進するため、多くの市民が利用している「学校体育施設開放」をはじめ、第1次実施計画事業やマニフェスト事業等の様々な取組みを実施してきたところであるが、26末目標値に到達しなかった。実施計画事業「特別教室開放の推進」は、計画内容を前倒して各区1校の開放を実施しているものの、全市で6校と実施校が一部に限られていることや開放教室の設備・備品の使用について、学校の施設管理の状況と利用団体のニーズが一致しないことなどから、一部では利用が伸び悩んでいる。もう1つの実施計画事業「放課後子ども教室の推進」については、市内全小学校で実施しているものの、多くの学校でボランティア人材の不足などの課題があり、参加指導員・協力員数、参加児童数ともに目標値を下回っている。

以上のような要因から、学校を活用する事業に対する、市民の利用状況・参加状況自体が低調であることにより、目標の達成に至らなかったと考えられる。

【課題及び今後の取組みの方向性】

第1次実施計画で取り組んだ「特別教室開放の推進」については、利用が伸び悩んでいることから、今後は利用団体や学校との調整、地域への働きかけにより、さらなる利用促進に努める。第1次実施計画で未達成であった「放課後子ども教室の推進」については、ボランティア登録制度等による指導員・協力員の確保に加え、今後は民間企業・大学等の協力を得ながらより多様で魅力的な体験・学びの機会の提供を検討し、参加者・協力者の増加を図る。

両事業の改善を進めるとともに、マニフェスト事業及び第2次実施計画事業として検討が進められている「学校施設開放の推進」などとも整合を図り、多様な取組みによって地域に開かれた学校づくりを推進します。

指標を構成する事業

計画事業

No.	事業名	主な取組項目	H23末現況	計画内容	H26末目標	H26末実績	進捗	事業費	(千円)
1	特別教室開放の推進	実施校の拡充	2か所	3か所	5か所	6か所	達成	1729	
2	放課後子ども教室の推進	参加指導員・協力員数	37,000人／年	11,000人／年増	48,000人／年	24,617人／年★	未達成	11993	
3	放課後子ども教室の推進	参加児童数	126,000人／年	36,000人／年増	162,000人／年	92,358人／年	未達成	11993	

その他事業

No.	事業名	主な取組項目	H23末現況	事業量(H24～26)	H26末目標	H26末実績	進捗	事業費	(千円)
1	学校体育施設開放	利用回数(市民1人あたり)	2.56回	0.1回増	2.66回	2.42回	未達成	73,216	
2	学校・家庭・地域連携まちづくり推進事業	参加者数	児童生徒 約62,000人 保護者 約5,000人 地域参加者 約4,500人	参加者合計216,000人	参加者合計72,000人	参加者合計92,049人	達成	2,473	

政策評価シート【個票:客観指標】

施策の柱	3-1 未来を担う人材を育成する
施策	3-1-2 地域の教育力の向上

指標NO 71

指標名	学校セーフティウォッチャーの登録者数	単位	人
-----	--------------------	----	---

指標の説明	学校セーフティウォッチャーの登録者数	担当局(区)	教育委員会事務局
-------	--------------------	--------	----------

区分	H23末現状値	H27中間評価(H26末値)	H30中間評価(H29末値)	H34最終評価(H33末値)	達成状況
目標値	—	23,750	24,200	24,600	
現状値	23,151	26,855	—	—	○

目標設定の考え方	今後も着実に登録者数を増加させていくこととして目標値を設定した。
----------	----------------------------------

【達成状況の分析】
小学校の保護者が、PTA等の働きかけにより全員の登録をする学校が増えてきていることに加え、地域協力者の継続的な登録が目標の達成につながっていると考えられる。

【課題及び今後の取組みの方向性】
登録者の8割以上が保護者であり、地域協力者の割合は減少傾向にある。学校の開校日に活動するため、多くの実働回数や、下校時間の見守りが柔軟に対応いただける地域協力者の登録を、学校を通じて育成委員会、町内会に継続して呼びかけていく。

指標を構成する事業

計画事業	(千円)
No. 事業名 主な取組項目 H23末現況 計画内容 H26末目標 H26末実績 進捗 事業費	

その他事業	(千円)
No. 事業名 主な取組項目 H23末現況 事業量(H24~26) H26末目標 H26末実績 進捗 事業費	
1 学校セーフティウォッチャー登録者数 23,151人 599人増 23,750人 26,855人 達成 3,088	

政策評価シート【個票:客観指標】

施策の柱	3-1 未来を担う人材を育成する
施策	3-1-2 地域の教育力の向上

指標NO 72

指標名	放課後子ども教室参加率	単位	%
-----	-------------	----	---

指標の説明	全児童に占める放課後子ども教室に参加した児童の割合	担当局(区)	教育委員会事務局
-------	---------------------------	--------	----------

区分	H23末現状値	H27中間評価(H26末値)	H30中間評価(H29末値)	H34最終評価(H33末値)	達成状況
目標値	—	13.5	14.0	14.5	
現状値	13.0	12.8	—	—	×

目標設定の考え方	今後も着実に参加児童数を増加させていくこととして目標値を設定した。
----------	-----------------------------------

【達成状況の分析】

保護者を中心とした地域のボランティアにより運営を行っているが、事業開始から8年が経過し、多くの学校でボランティア人材の不足や意欲低下が顕在化している。

また、人材不足により「保護者の参加」を児童の参加条件としている教室もあり、就労家庭の児童が参加できない状況が発生している。そのため、コーディネーター・学習アドバイザーの配置基準の見直し、科学関係、ちば生涯学習ボランティアセンター、埋蔵文化財調査センター、中央図書館等の活動支援プログラムの充実等の既存の取組みに加え、平成26年度には、各教室の活動計画や運営の中心的な役割を担うコーディネーターの全校一律の複数配置、指導員や協力員の活動を支援する相談アドバイザーの派遣、地域住民だけでなく広くボランティアを募集するためのボランティア登録制度を行うことで、指導員や協力員の負担軽減を含めた活動支援を行ってきたが、十分な効果をあげていない。

【課題及び今後の取組みの方向性】

新たな担い手の確保や活性化が課題であるため、既存の活動支援の取組みを引き続き実施していくと共に、今後は、民間企業や大学等の協力を得ながら、学習の楽しさの発見など、より多様で魅力的な体験・学びの機会の提供につながる活動支援方策を検討していく。

指標を構成する事業

計画事業

No.	事業名	主な取組項目	H23末現況	計画内容	H26末目標	H26末実績	進捗	事業費	(千円)
1	放課後子ども教室の推進	参加指導員・協力員数	37,000人／年	11,000人／年増	48,000人／年	24,617人／年★	未達成	11,993	
2	放課後子ども教室の推進	参加児童数	126,000人／年	36,000人／年増	162,000人／年	92,358人／年	未達成	11,993	
3	地域づくりにつながる学習講座の推進	地域活動に係る人材養成	890人／年	50人／年増	940人／年	1,067人／年	達成	0	

その他事業

No.	事業名	主な取組項目	H23末現況	事業量(H24～26)	H26末目標	H26末実績	進捗	事業費	(千円)
-----	-----	--------	--------	-------------	--------	--------	----	-----	------

政策評価シート【個票:生活実感・行動指標】

施策の柱	3-1 未来を担う人材を育成する
施策	3-1-3 こどもの参画の推進

指標NO 73

指標名	こどもが地域などで意見を述べる場・発言する場がある	単位	%
-----	---------------------------	----	---

担当局(区)	こども未来局
--------	--------

区分	H23末現状値	H27中間評価(H26末値)	H30中間評価(H29末値)	H34最終評価(H33末値)	達成状況
目標値	—	16.0	20.0	25.0	
現状値	11.5	12.8	—	—	△

目標設定の考え方	こどもの頃から主体性や自立心を育むことが重要であるため、こどもの参画推進事業などにより意見を述べる場づくりを充実させることとし、目標値を設定した。
----------	---

【達成状況の分析】

こどもが地域などで意見を述べる場・発言する場があると感じられるようにするため、指標を構成する各事業を実施しており、事業別のH26末目標値は「こども・若者のカフォーラム」を除き、達成又は概ね達成しているところであるが、市民アンケートの結果は、H27年中間評価の目標値の16.0%に到達しなかった。H27年中間評価の目標値に到達しなかった原因としては、「こども・若者のカフォーラム」事業の参加者数が目標値に達していないことも要素の1つとして考えられるが、各事業の趣旨及び効果等が市民にうまく伝わっていないこと等が主なものとして考えられる。

【課題及び今後の取組みの方向性】

指標を構成する事業は、「こども・若者のカフォーラム」を除き、H26末目標値を達成又は概ね達成しているが、市民アンケートの結果につながっていないということは、各事業の趣旨及び効果等が市民にうまく伝わっていないと考えられる。今後、各事業の趣旨及び効果等を、市民により丁寧に説明するなど、一層の周知を図っていく。

指標を構成する事業

計画事業

No.	事業名	主な取組項目	H23末現況	計画内容	H26末目標	H26末実績	進捗	事業費(千円)
1	こどもの参画の推進	こども・若者のカワーカショップ	2区で開催	4区で開催	全区で開催	6回(計5区で開催)	概ね達成	0
2	こどもの参画の推進	こども人材バンク登録数	60日	90人増	150人	245人	達成	0
3	3R教育・学習の推進	小学生のごみ出しチェック隊の認定者	830人	900人増	1,730人	1,731人	達成	0
4	キッズ・アントレプレナーシップ(起業家精神)教育の推進	子ども起業塾	1か所	2か所拡充	3か所	3か所	達成	200
5	若葉区の魅力伝承	情報発信	情報サイトの構築	サポーター任命 魅力会議 情報サイトの充実	魅力情報の収集・発信	魅力情報の収集・発信 ★	達成	132

その他事業

No.	事業名	主な取組項目	H23末現況	事業量(H24~26)	H26末目標	H26末実績	進捗	事業費(千円)
1	こども・若者のカフォーラム	参観者数	181人	255人	255人	H26 123人	未達成	3,293
2	こどものまちCBT	参加者数	333人/日	330人/日	330人/日	H26 403人/日	達成	300
3	職場探検＆ランチミーティング	参加者数	3コース 47人	3コース 60人	2コース 40人	H24 3コース 25人 H25 3コース 35人 H26 3コース 36人	概ね達成	3,293
4	子ども議会	子ども議会	66人	66人	66人	67人	達成	546

政策評価シート【個票:客観指標】

施策の柱	3-1 未来を担う人材を育成する
施策	3-1-3 こどもの参画の推進

指標NO 74

指標名	こどもの参画事業参加人数	単位	人
-----	--------------	----	---

指標の説明	こどもの参画事業(「こども・若者のカワーケショップ」「こど・若者のカフォーラム」「職場探検＆ランチミーティング」「こどものまちCBT【コアスタッフ】」「子ども議会」「子ども大学」等)への参加人数	担当局(区)	こども未来局
-------	---	--------	--------

区分	H23末現状値	H27中間評価(H26末値)	H30中間評価(H29末値)	H34最終評価(H33末値)	達成状況
目標値	—	350	440	550	
現状値	279	331	—	—	○

目標設定の考え方	こどもの参画事業の各イベントについて、ホームページ等による広報・PRを充実させることとし、目標値を設定した。
----------	--

【達成状況の分析】

こどもの参画事業は、①子どもの意見を市政やまちづくりに反映することにより、千葉市が活性化すること、②そのような体験を通じ、子どもが将来的に市政やまちづくりに積極的に参画する大人へと成長すること、を目指し事業を展開している。

こどもの参画事業として、指標を構成する各事業を実施しており、事業別のH26年末目標値は、ほぼ「達成又は概ね達成」となっているが、「未達成」である「こども・若者のカフォーラム」などの参加人数を踏まえると、H27中間評価の目標値の350人に到達しなかった。

原因としては、参画事業の趣旨及び効果が市民にうまく伝わっていないこと、また、例えば「こども・若者のカワーケショップ」事業における検討テーマの設定などにおいて、子どもの興味・関心を引くようなテーマ設定にやや欠けたことがあった、等が考えられる。

【課題及び今後の取組みの方向性】

市政だよりへの掲載、小中学校や高校への周知等、こどもの参画事業への参加募集に力を入れているところであるが、一部の意識が高い子どもの参加のみにとどまっている現状があるため、今後は、より多くのこども・若者が各事業に参加するよう、事業趣旨や効果を丁寧に子どもとその保護者に説明するなど、参加者募集に力を入れていく。

また、例えば「こども・若者のカワーケショップ」の検討テーマを子どもにとって興味・関心を引くものにするなど、子どもが参加したいと思う事業展開を心掛けていく。

指標を構成する事業 計画事業

No.	事業名	主な取組項目	H23末現況	計画内容	H26末目標	H26末実績	進捗	事業費(千円)
1	こどもの参画の推進	こども・若者のカワーケショップ	2区で開催	4区で開催	全区で開催	6回(計5区で開催)	概ね達成	0
2	こどもの参画の推進	こども人材バンク登録数	60日	90人増	150人	245人	達成	0
3	こどもカフェの運営	モデル運営	1か所	1か所増	2か所	2か所★	達成	632

その他事業

No.	事業名	主な取組項目	H23末現況	事業量(H24~26)	H26末目標	H26末実績	進捗	事業費(千円)
1	こども・若者のカフォーラム	参観者数	181人	255人	255人	H26 123人	未達成	3,293
2	職場体験 & ランチミーティング	参加者数	3コース 47人	3コース 60人	2コース 40人	H24 3コース 25人 H25 3コース 35人 H26 3コース 36人	概ね達成	3,293
3	こどものまちCBT	参加者数	333人/日	330人/日	330人/日	H26 403人/日	達成	300
4	子ども議会	子ども議会への参加者数	66人	66人	66人	67人	達成	546
5	子ども大学	参加者数	—	市内小中学生を対象に 20人参加	市内小中学生を対象に 20人参加	H24~26 実施せず	休止	0